ローザンヌ・ユダヤ人伝道協議会　日本支部発行

LCJE ニュース 248

2020・2021 冬号

一部 ￥200

2020.12.15発行

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10　VIP関西センター3F　Eメール　lcjejapan@hotmail.com
TEL. 072-867-6721　FAX. 072-867-6721　ホームページ　LCJEJAPAN.com

郵便振替　LCJE日本支部・00950-4-25633

Networking Jewish Evangelism LCJE

P2
LCJEオーストラリア　ボブ・メンデルソン
P2-P3
JFJロサンゼルス　ツブヤ・ザレツキー
P4
JFJモスクワ　マキシム・アマソフ
P5
ゲストハウスが誕生　石井田直二
P6
オンライン集会　香港CWI
P7
メシアの家　網元パブロ
P8
お知らせ　事務局より

巻頭言

コロナ禍の年越しをきっかけとして、あなたのためにこのような祈り

LCJE 日本支部コーディネーター　C．クリンゲンスミス

新年 2021 年あけましておめでとうございます。

昨年 2020 年にわたって、ＬＣＪＥ日本支部とかかわってくださった皆様に心より感謝を申し上げます。東京や大阪の定例祈祷会の参加者、ＬＣＪＥニュースの愛読者、ＬＣＪＥ日本支部のホームページを検索してくださった方々、また、ＬＣＪＥ日本支部の働きのために寛大な捧げものを送ってくださった方々に神の報いと祝福をお祈りいたします。どうもありがとうございました。

さて、年越しができたとしても、この国は世界と共に去年から煩わされている新型コロナ・ウイルスとさらに付き合わねばならない新年になりました。私は、去年このコロナ禍が始まった頃から自分の祈りの中で特別に次の５つの聖句を祈ってきました。この５つの聖句も年を越えて携えていきたいと思います。この聖句は、そのままで祈りとなったいます。主がどのように適用されるかは、主の御旨にまかせていく祈りです。以下の聖句が表しているように、主の御旨は、まさに憐れみ深い、慈しみ深いですので、そういった御旨に応じていっそう大きな信仰が必要だと感じてきました。

今年もＬＣＪＥ日本支部の関係者すべてのために、また、皆様一人一人のご家族や知人、友人や幅広い意味の交わりの輪の一人一人に主が御言葉の文字通りにしてくださいますようにお祈りいたします。

1)「愛する者よ。あなたの魂が恵まれているように、あなたがすべての面で恵まれ健康であるようにと祈っています。」（第３ヨハネ２新共）魂ばかりでなく、すべての面ということで、お家の中で、職場の中で、教会生活を励む中で主イエス様があなたにこの新しい時代の日々に応じて必要な健康を与えてくださるように。

2)「あなたの目は、まだできあがらないわたしのからだを見られた。わたしのためにつくられたわがよわいの日のまだ一日もなかったとき、その日はことごとくあなたの書にしるされた。」（詩編 139：16 口語）ダビデが驚きとともに記した深い安心感がポイントでしょう。驚くばかりの神の知恵と御力に応じて、神様はこの私やあなたのために最善の日々をあらかじめ計画してくださったと感じたいです。そういった日々は経験する途中、恐ろしいものかも、悲しいものかもしれませんが、後で適切な立場から振り返ってみれば、まさに最善だったと感じるように新年にも祈っていきたいと思います。

3)「われらにおのが日を数えることを教えて、知恵の心を得させてください。」（詩編 90：12 口語）神様は前もって私たちのすべての日々をご存知ですが、私たちはこの今日というものしか知ることができません。このパンデミックは安定と当たり前の生活は、そうでもないと世界のすべての人に見せてくれました。したがって私たちの課題は何が一番大事か、何が一番必要かを確認しながら必死に一日一日を主とともに過ごして、神様にとって大事なことを私たちも大事にするということです。それぞ知恵ではないでしょうか。

4)「あなたは夜の恐ろしい物をも、昼に飛んでくる矢をも恐れることはない。また暗やみに歩き回る疫病をも、真昼に荒らす滅びをも恐れることはない。」（詩編 91:5、6 口語）すなわち、健康を授かるだけでなくて、病気への恐れからも守られるということです。確かに去年春からほぼ毎日、ぞっとさせるコロナ禍関係ニュースが世界の各地から私たちのところに届きましたが、今年中、いっそう恐ろしいものとなっても、経済がまたいくら絶望的に見えても、私たち皆、元気で主にすがって御言葉を単純に読んで、単純に聞いて、単純に信じて、主のお望みの一年を過ごさせていただけるように何よりも祈っていきたいと思います。

5)「わたしたちの主イエス・キリストの父である神、慈愛に満ちた父、慰めを豊かにくださる神がほめたたえられますように。神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。（2コリント１：3、4 新共）今年、どのような試練や挫折を経験しなければならないとしても、願わくは、自分に起こってくる辛いことが何らかの形で隣人の益、すなわちキリスト信仰への励ましや慰めとなりますようにとも祈ります。

そういうことで、もし 2021 年末という時期が与えられれば、振り返ってみて、私も皆様もどのようにして御言葉の働きを経験したか楽しみにしましょう。

Shalom to our colleagues in Japan! Bob Mendelson

日本の皆様、シャローム！

LCJE オーストラリア　ボブ・メンデルソン　　翻訳　石井田 直二

コロナウイルスがオーストラリアに侵入し、ビクトリア州でロックダウンが実施され、各地で死者が増加しています。夜の報道番組では連日、悲しいニュースが流れ、感染拡大の影響による失業、精神を病む人々の増加、アルコールや麻薬中毒者の増加が報じられています。人々は希望を失っているのです。教会での礼拝は3月に全面停止されましたが、7月から徐々に再開されています。それでも多くの教会は感染を恐れており、集会を行っている教会でも距離を確保した上で、賛美もやめている状態です。

あらゆる状況が激変し、経済について悪い予想ばかりが報じられ、学校は当分の間はオンライン授業、カンタス航空など航空会社は 2021 年末まで国際便を停止するとの報道も流れています。世の中は「悪い知らせ」ばかりです。

こういう悪い状況の中でも、Ｊ４Ｊのオーストラリア支部は「良い知らせ」を広めています。神は私たちに新しいアイデアを与えて下さり、それはうまく行っているようなのです。神の主権を賛美しましょう。

コロナ禍が始まるのとほぼ同時に、クイーンズランドにいるユダヤ人ビリーバーの夫妻が、手指消毒剤を無料で送ってくれました。私たちは喜んで、それを使って私たちの書店の周囲にいる隣人を助けようと考えました。様々なアイデアを考えていると、夫妻は合計４０リットルの消毒剤を送って下さったので、それを小さなボトルに詰め替えました。そのボトルに福音の説明を付けて、数百セットを配布することができました。書店の周辺には多くのユダヤ人がいますが、彼らは何度もやって来て、消毒液をもらって帰りました。私たちが「ユダヤ人はイエスを信じても良い」と人々に教えているので怒っている人々も多少はいましたが、ほとんどのユダヤ人たちは、無料の消毒液に大喜びしていました。この企画は大成功でした。（消毒液の写真と、一緒に配布した文書を添付しておきます。）

そして、人々が私たちを見つけやすい場所に、活動を移さなければならないことに気づきました。確かに、私たちの書店は、光と祈りの灯台として、毎日、とても限られた時間ではありましたが、営業を続けました。少しでも希望を求めて、未信者さえもお店にやって来ました。彼らは情報を求めていました。安全、安心に過ごせる方法を求める彼らに、私たちは彼聖書や他の宣教文書を提供しました。今、起きていることは全て、神がご存じなのだと教えてあげました。神の御業は誰にも止められないのだから、ただ神を信じなさいと。

しかし、問題は、ほとんどの人々が移動も旅行もできなくなっていることです。そこで、毎週、金曜日の朝に Zoom の聖書クラスを開講することにしました。

すると、毎週、新しい人々が加わるようになりました。オーストラリアのビリーバーに参加を呼びかけけたのですが、日本にいるユダヤ人女性、米国やニュージーランドからも参加者がありました。その聖書のクラスは現在も続いており、そこから、さらに御言葉を掘り下げて話し合い、弟子訓練を行うグループも始まりました。牧会レベルの弟子訓練は長年の夢でしたが、今やコロナウイルスのおかげで、それが実現したのです。現在、そのようなグループが３つ誕生しています。

私たちのスタッフは、ここでのユダヤ人からの反響に励まされています。毎週、ユダヤ人が来て、店に座り、コミュニティに参加し、安息日の食事の集まりに参加しています。彼らは私たちの施設に自分の居場所があると思ってくれているのですが、それは容易なことではありません。私たちのコミュニティは、誰でも歓迎しています。恐怖とソーシャルディスタンスに支配された不確実な時代に、私たちは愛ある救い主の代理者として、集まるすべての人々を歓迎しているのです。

伝道を続ける私たちのために、引き続きお祈り下さい。神は聞いておられます。時代は引き続き不確実ですが、主は確かなお方です。そして私たちは彼のものなのです。

Report from Jews for Jesus to LCJE Japan Tuvya Zaretsky

ＬＣＪＥ日本支部様へ ジューズ・フォー・ジーザス（J4J）の活動状況

JFJ ロサンゼルス　ツブヤ・ザレツキー　　翻訳　石井田 直二

私たちの6月号の機関誌で、ＣＯＶＩＤ−19の感染拡大の中での、世界各地での活動状況を報告させていただきました。最初は「福音の伝染力を保つ」という励ましの記事です。他の多くのミニストリーと同様、私たちも

また、コロナウイルス感染が活動に大きな影響を与えることがわかった段階で、ソーシャルメディアや他の方法による個人的なコミュニケーションに注力するようにしました。世界各地の支部のリーダーたちは、ビデオ会議で集まり、今後予想される制限下での活動について計画を立てました。以下は、その計画から生まれた取り組みの一部です。

第一は、オンラインやライブストリーミングのシステムを広範囲で活用することです。過越の祭の時期には、各教会で予定されていた750の実演が全て中止に追い込まれたため、私たちはオンラインに切り替えました。6つのチームがライブ番組を制作し、受難週に北米全体で繰り返し放映したところ、合計で約13,000人に登録・視聴していただくことができました。

ハンガリーのブダペストでは、霊的な難しい問題に関する毎週の学びが3月まで私たちの支部で開催されていました。毎週のゲスト参加者は7～8人でした。4月に入って直接会うことができなくなった時、私たちは「Beyond Schmooze」（イディッシュ語で「暖かい以上の集会」というような意味）というオンラインの集会を開催しました。すると、驚いたことに27人ものゲストが参加されたのです。対面の集会の参加者の何と3倍の人数です。この集会では、今も素晴らしい霊的対話が続いています。このプロジェクトは、CWI（Christian Witness to Israel）と、私たちJ4Jの協力により開催されています。

フランスのパリでは、政府の規制が厳しく、自転車の使用は禁止で、徒歩やジョギングも自宅から1マイル（1600m）以内に制限されました。集合住宅に住む人々が、運動不足になり、全国で不満が高まりました。J4Jスタッフのライオネル・ギメルファーブは牧師であると同時に、訓練を受けたフィットネスインストラクターでした。実は彼と妻のヴァレリーは共にトライアスロンの選手なのです。そこで、彼らは「Fit to Faith」（健康で信仰）という番組を毎朝ライブ配信しました。30分間のエアロビクス運動の指導と共に、賛美と御言葉、特にヘブライ語を使った旧約聖書の学びを組み合わせたものです。その結果、継続参加者のコミュニティも生まれています。

米国支部では青少年向け活動に力を入れていましたが、それは夏がシーズンです。しかし、今年は現実世界での「ギルガル」サマーキャンプの活動はすべて中止に追い込まれました。そこで私たちのスタッフは、Facetime、Zoom、Skype、Facebookビデオを用いて、若い子供や10代の若者とリモートでつながる活動を計画しています。米国の東海岸では、チームや若者向けの「chill time」という活動のオンライン版が、若い子供たち向けに制作されました。番組の多くは、ウイルスを恐れている子供たちを励ますためのものです。その一つでは、詩篇46:1「神はわれらの避け所また力である。悩める時のいと近き助けである」という主題を取り上げます。8月に西海岸で行われる「ギルガル」のキャンプは、今年は「箱のキャンプ」として実施予定です。95人の参加者全員が、大きな段ボール箱を郵送で受け取りました。箱にはキャンプで取り組むプロジェクトの材料がいっぱい詰まっています。各自が自宅でそれに取り組むのですが、Zoomの機能を使って、離れた場所にいる他の参加者と一緒に活動できるという趣向です。8月にこれに参加する子供たちの上に、霊的祝福があるようにお祈り下さい。

イスラエルにおいても、フランス同様に厳しい移動制限が課せられました。イスラエルのJ4Jスタッフは、オンラインのビデオイベント開催に挑戦することになり、ソーシャルメディアやWhatsApp（イスラエルで人気のあるLINEのような連絡ツール）を用いて、ユダヤ人を「訪問」することになりました。そんな中で、高齢者と交流する、すばらしい宣教の機会も与えられました。私たちのイスラエルのスタッフは、すでに路上生活者や家から出られない人々への奉仕活動に成功していたので、テルアビブの市役所からJ4Jに連絡があり、在宅の高齢者に食べ物を届けるスタッフになって欲しいと、要請があったのです。私たちの宣教スタッフは、普通は決して「イエスに関する霊的食物」にふれる機会が無いような人々と接する、貴重な機会を与えられたのです。

イスラエルのチームは、国防軍兵士への宣教活動においても他の団体と協力しています。パンデミックの中、軍は兵士たちに、基地から離れている間も5人を超えて集まらないようにと命じられました。テルアビブにある私たちの施設は、毎週、交わりと休息のために多数の兵士を受け入れています。そこで、軍の上官の命令を順守できるように、プラスチック板を使って宣教センターのスペースを分割することにしました。こうして、兵士たちは5人単位で集まり、祈り、励まし、霊感を分かち合うことが可能になっています。

最後に、パンデミックの間、ライブチャットのシステムを広範囲に活用したことをご紹介しましょう。ウェブサイトを訪れ、霊的な問題について質問する求道者と、リアルタイムで交信するために、私たちのスタッフは訓練を受けています。カタ・タールは、ブダペストの事務所から、約5,000マイル離れた米国のユダヤ人大学生であるアーロンとオンラインで出会いました。そしてアーロンは、この出会いの中で、神の恵みと主イエスへの信仰による救いを受けるために祈ることができました。

ユダヤ人伝道のために、日本から主に届く祈りで励ましていただけることに感謝します。この特別で困難な時期に、日本の皆様と活動のためにどのように祈ればよいかをお教えください。主が皆様の安全と健康を保ち、福音の「伝染力」を保つことができますように。

シャローム！　祝福がありますように！

パンデミック中の ジューズ・フォー・ジーザス・ロシアの活動

ジューズ・フォー・ジーザス・モスクワ支部　マキシム・アマソフ　翻訳　石黒 イサク

新型コロナウイルスのパンデミックは、ロシアとジューズ・フォー・ジーザス・モスクワ支部にも深刻な事態であり、状況を認識し始めたとき、私はショックを禁じ得ませんでした。過越の祭りに際して計画していた二週間の路上アウトリーチはすべてキャンセルとなりました。私たちはチラシを印刷し、人々を募集し、食料も少し購入したりして、多く準備をしていたにも関わらず、中止を余儀なくされました。

3 月終わりから 6 月初旬にかけて、モスクワの住人は移動を厳しく制限されていて、特別パスが発行されて、それを持つ人々だけが、通りを移動できたのです。教会やモールは閉鎖されただけでなく、外出を許可された人々は、必ずデジタルパス、パスポート、マスク、手袋を携行し、社会的距離を保たなければなりませんでした。違反者には、すべて罰金刑が科せられました。

しかし神様は変わりなく素晴らしい御方です。**主は変わることが無く、忠実であられます。(詩篇 89:32-34)**

パンデミックの規制の中でも、主は私たちに多くの祝福を与えてくださいました。私たちには電話とインターネットだけが伝道の方法として残されただけでした。都市封鎖で人々が閉じ込められることを余儀なくされたとき、彼らは電話やオンラインで霊的なコミュニケーションに対して、よりオープンになっていることに私たちは気づきました。私たちは Facebook で毎週の聖書研究会の様子を放送し始めました。また多くの短いビデオの説教を集録して、インスタグラムやフェイスブックに投稿しました。そして多くの人々が私たちの投稿を見て、応答してくれました。実際これらの取り組みは、平時のオフライン・イベントよりも良く、より大きな反応を得ることができました。神様を賛美いたします！

私たちはまた、特に電話ミニストリーでも祝福を受けました。4 月と 5 月にあった二つの主要なユダヤ例祭、過越の祭りとシャブオットの時に、3 人の宣教師と 4 人のボランティアで形成する私たちのチームは、データベースにあるモスクワ在住のユダヤ人に電話をかけて、「ハッピー・パスオーバー」、「ハッピー・シャブオット」というメッセージを伝えました。二ヶ月半の間に私たちのチームは 900 人以上のユダヤ人と話し、電話で 400 回以上の聖書講座をすることができました。そのうちの 47 人は、彼らの心にメシアを受け入れる祈りをして電話を切りました。！

宣教師イリヤが書いた 47 の宣教体験物語から一つを次に紹介します。

私が電話した時、祖母がユダヤ人だというオレグが応答してくれました。話をしている間に、彼は自分が罪人だと認めましたが、罪を犯したら、また悔い改めるということを受け入れることができませんでした。そこで聖書を開いて、ローマ書 7 章 19-20,24 と 8 章 1,2 を読みました。イエシュアだけが、人を罪の奴隷状態から解放することができること、信仰の一歩を踏み出し、イエシュアに来る人は赦しを受け、神の子とされ、神様との交わりが回復することを伝えました。オレグは彼の心を開き、私の後にキリストを受け入れるための祈りを繰り返しました。主を誉め称えます。私は霊的成長の最初のステップを説明し始めたところ、オレグは私の話をさえぎり、「私には今、何が起こっているのか。まだ私はあなたと一面識も無いのに、、、私は泣いているのです！」と言いました。私は「これが聖霊の御業なのです。主は人の心に触れ、神様が彼を愛しておられることをささやき、確信へと導かれるのです」と伝えました。私たちは定期的に電話で、一緒に聖書を読むことになっています。

主イエス様がユダヤ人に救いをもたらすために、私たち宣教師とボランティアたちを用いてくださることは、実に驚くべきことです。

JFJ のチームワークを示す、別の 3 つの短い証しを次に紹介します。

82 歳のシモンは、2014 年のモスクワ伝道プロジェクトの時に、奥さんのエステルから連絡先情報を受け取った人です。そして 2016 年、私たちの宣教師のスヴェタは、彼ら家族を訪問して聖書研究を導きました。ボランティアのガリヤは5月に、この素晴らしいユダヤ人家庭に電話をかけ、シモンとエステルにシャブオット (ペンテコステ) の挨拶を伝えようとしました。その時、彼らは二人とも重病で、常任看護師が自宅に住んでいることが判明しました。まずガリヤは看護師に、なぜシモンと話したいのかを説明しなければなりませんでした。彼は病気のために話すのが困難で、会話は非常に長い時間かかりました。忍耐のいることでしたが、ガリヤの努力は報われました。ゆっくりと話して最後にシモンは彼の心にイエス様を受け入れる祈りをしました！神様を賛美します！

25 歳のルスランは 2018 年、私たちに電話番号を知らせてくれました。それから私たちのユース宣教師のパヴェルは、彼に何度か電話をしました。彼らは幾度か良い会話ができましたが、それは聖書の研究などを含むことはありませんでした。そして今回、パンデミック期間に、私たちのボランティアのガリヤはルスランに電話をかけてみたところ、彼は一緒に聖書を読んで、とても喜んでいました。それから彼は罪人の祈りを祈ることに同意して、一緒に祈りました！　主を誉め称えます。

35 歳ナタシャは 2 年前、私たちのハイホリデー・ストリートプロジェクトの時に出会いました。私たちが地下鉄駅前で短い会話をした後、彼女は連絡先を教えてくれました。私たちの宣教師オルガは定期的に彼女に電話し、私たちのボランティアのナディアも彼女と連絡を取り合っていました。そして 2 年後、ナディアが電話したとき、ペンテコステの問答が始まり、彼女らは使徒行伝 2 章を読みました。会話の最後に、二人の女性が祈り、ナタシャは彼女の心に、イエス様を迎え入れました。主を誉め称えます。

東京にユダヤ人旅行者向けゲストハウスが誕生！

2017年LCJE東アジア・ユダヤ人伝道カンファレンスで生まれた関係から、日本の地で新たな活動が始まろうとしています。東京で現在、準備が進んでいるユダヤ人旅行者向けのゲストハウス「ベイト・サムライ」についてレポートさせていただきます。

シオンとの架け橋　石井田 直二

トゥルーベック師のビジョン

2017年のカンファレンス参加のために初来日されたトゥルーベック師夫妻は、その時にも日本でユダヤ人と日本人に福音を伝えるというビジョンを語っておられました。夫妻は、2011年に発生した東日本大震災のニュース映像を見た時、日本に対する重荷を受取られたとのことでした。

カンファレンスのための来日で、夫妻は多くの日本のクリスチャンとの関係を構築し、その後も何度か来日して日本での活動に向けた準備を進めて来られました。カンファレンスに出席して、近年、日本を訪れるユダヤ人観光客、特に兵役を終えた若者たちが急増しているとのレポートなどを聞き、彼らに対する伝道に大きな可能性を見出されたようです。

偶像礼拝の国である日本での体験は、トゥルーベック師には大きな衝撃だったようです。たまたま教会に来ていた未信者のために「イスラエルの神」の名で祈ったところ、その人から「日本の神の名でも祈って下さい」と言われて絶句したとか。日本での宣教の難しさがわかったと、語っておられました。しかし、そのような中で、日本人の持つユダヤ人に対する不思議な親近感も感じられたようで、日本人とユダヤ人に同時に伝道したい、という思いを強くされたようです。

また、2017年のカンファレンスの際に、教会でのメッセージのためにヘブライ語から日本語への通訳を探す中で、アイザック・内山師との出会いがあり、それが東京でのゲストハウス実現につながりました。

いのちの木メシアニック集会

2017年のカンファレンスでは、日本でほぼ唯一のメシアニック・ユダヤ人集会だとされる「いのちの木メシアニック集会」のリーダー、内山憲司師も集会のビジョンなどを語って下さいました。内山師はもともと米国のメシアニック・コングリゲーション「オヘブ・イスラエル」の執事で、1990年代に米国で多くの日本人に伝道しておられました。しかし、2001年の同時多発テロの後で彼らの多くが帰国し、内山師夫妻も帰国することになったのです。

ところが、メシアニック・コングリゲーションで救われた人々にとって、一般のキリスト教会はなじみにくいものがあり、内山師らは東京でメシアニック礼拝を始めることになりました。そして2008年、ユダヤ人女性と結婚した子息のアイザック・内山師が帰国され、ほどなく子供も誕生して、日本人だけだったメシアニック集会は、ユダヤ人メンバーを持つメシアニック・コングリゲーションとなったのです。

そして2015年、アイザック師は按手を受けて集会の副リーダーに。ユダヤ人と異邦人が**「共に約束にあずかる」(エペソ 3:6)**というビジョンで集会を導き、集会は様々な国の人々が集うグループに成長しました。そしてアイザック師は、トゥルーベック夫妻の日本での活動ビジョンを聞いた時、同じ目標を目指していることに気づき、協力を決めたそうです。

現状と今後のビジョン

トゥルーベック夫妻のビジョンは、数年間の予定で子供たちを連れて来日し、東京でゲストハウスを運営しながらユダヤ人と日本人に伝道するというもの。夫妻は現在、テルアビブのティフェレット・イェシュアの指導者の一人ですが、チョーズン・ピープル・ミニストリーズ（CPM）の宣教スタッフでもあり、日本での活動もCPMの傘下で行うことを検討中。CPMはLCJE世界ネットワークの一部ですが、日本では知名度が低く、支援献金がどれだけ集まるかは未知数です。しかし、トゥルーベック夫妻は、何とか日本での活動を実現したいと願い、毎月、日本向けの様々なオンラインセミナーを開催していて、多くの人々が参加しています。

内山憲司師によると、「すでにゲストルーム用の部屋は準備ができている」とのことですが、コロナウイルスの感染拡大で、イスラエルからの航空便も飛ばなくなっており、当初の目標である、イスラエル人の若者たちを迎えることは実現できていません。しかし、いずれはコロナが終わって活動が開始できる日が来ると期待しつつ準備を進めておられます。

いのちの木メシアニック集会は、ユダヤの祭を実践しておられて、すでに未信者のユダヤ人もよく訪れているとのことで、そこに兵役を終えたイスラエルの若者を迎えれば、自然な形で福音を伝えることができる可能性があります。イスラエルで実績を持つトゥルーベック師夫妻が加われば、きっと、すばらしいチームができることでしょう。早くコロナが終わって活動が始まり、日本国内からも支援者が起こされるようにと願っています。

ONLINE

宣教団体が続々とオンライン集会を開催 デメリットもあるが、新たな可能性も

シオンとの架け橋　石井田 直二

香港CWIがオンライン集会を開催

10月29日夜に、香港CWIが「コロナ禍の中での宣教」という約1時間半のオンライン集会を開催しました。中国語圏の人を中心に、約150人が参加。双方向のZOOMならではの、和気あいあいとした雰囲気で集会が進められました。

最初に、昨年に行われた中国人グループによるホロコースト生存者の訪問活動の報告があり、その後にイスラエルでの活動報告がありました。イスラエルがちょうど第二次ロックダウンの最中でしたが、ハガフェン出版のデイビッド・サドク師からは書籍配布や、教育プログラムの制作が順調に進んでいると報告があり、また、路上生活者や麻薬中毒者への宣教に携わるイガル宣教師からも救われる人々が起こされているとの報告がありました。そして、ロンドンのユダヤ人地区での宣教についても、フィリップ宣教師から現状報告がありました。

最後は、指導者のスタインバーグ師のラザロの復活に関するメッセージで、イエスが涙を流された（ヨハネ 11:35）から、ユダヤ人に永遠の命を与えることが、イエスの願いだったことが解き明かされました。そして復活の奇跡を見たユダヤ人たちが、ある人々は信じ、ある人々はパリサイ人に告げ口した（11:45-46）という個所から、福音を伝えれば反発を受けることもあるが、それも神のご計画だとの指摘があり、いくら反対されても福音を伝えようと、力強く語られました。

興味深かったのは、最初の報告で、中国人外交官として数千人のユダヤ人を助けた何鳳山（かほうざん）が「命のビザ」を発行して多くユダヤ人たちが上海に逃れた歴史が紹介されたことです。西洋のクリスチャンと違って、ユダヤ人虐殺にはかかわらず、ユダヤ人を助けたアジア人には、ユダヤ人の心を開く特別な使命がある、と訴えられました。日本も、多数のユダヤ人難民が杉原千畝氏の発行したビザで神戸に逃れて来た歴史があるので、興味深く聞かせていただきました。

他の団体もオンラインで集会を開催

CPM（Chosen People Ministries）も7月23日、オンラインで集会を開催しました。ミッチー・グレイザー師が進行役で、賛美や各地の宣教レポートがあり、コロナで封鎖下でも世界各地で宣教を続けているとの報告がありました。彼らの活動拠点はニューヨークなので、影響は深刻だったようです。映像や音声のクオリティが高く、イスラエルを含む世界各地の宣教の状況がよくわかりました。

CPMは秋の祭の際にも、3回にわたって同様のオンライン集会を開催し、いずれも千人程度が参加しました。それぞれ、メシアニック・ラビが式典を行いながら解説する、興味深い内容でした。ハヌカの祭の集会も行われるもようです。

イスラエルの宣教団体も、相次いでオンライン集会を開催しています。ハイファのカルメル・アセンブリー（ピーター・ツカヒラ師）も、秋になってアジア各地の宣教団体と連携して、様々なオンライン集会を開催しました。同じくハイファにあるシャベイ・シオンや、テルアビブのトゥルーベック夫妻も日本やアジア向けに集会を開催されており、また、多くのメシアニック・コングリゲーションの安息日礼拝にもアジア各国からの参加が可能になっています。

以前は、電気機器の使用が禁じられる安息日礼拝にオンライン参加することなど、考えられないことでしたが「コロナのおかげ」でそれが普通になり、各国のユダヤ人やクリスチャンが参加しています。

オンライン会議の長所と短所

シオンとの架け橋でも、「聖書に学ぶ会」など、様々なミーティングでオンライン会議システムを活用しており、イスラエルから講師が語るという企画が可能になりました。今まで集会に参加できなかった北海道や沖縄の人々からは喜びの声が届いています。「コロナで仕方がないから」で急に普及したオンライン集会ですが、障がい者や貧しい人、忙しい人も差別なしに参加できるうえに、化石燃料を浪費せず地球環境にやさしい、という長所も無視できません。それでいて、時間も経費も安上がり。オンラインへの移行は、コロナが終わっても、もう止められないと感じます。

オンライン集会やライブ配信は、現実会場での集会に比べて参加者が一桁以上も多くなり、さらに録画を公開すれば長期にわたって影響力を持ちます。これは本の出版のようなものです。しかし、本を買った人の多くが「ひろい読み」や「積ん読」をするのと同じ原理で、「ながら参加者」「ひろい読み視聴者」が増えるという点も頭に入れなければなりません。

コロナ禍は人の計画によって起きたものではありません。人の全ての計画が崩れ去り、否応なしにオンライン集会に頼らざるを得ない現状は「ご計画に従って召された私たち」（ローマ 8:28）には、最終的には益をもたらすものではないかと思っています。

目を覚ます時こそ、真のワクチンである

メシアの家代表　網本 バフロ

シャローム！

ウィズコロナの中、LCJE ニュースレターを愛読されている皆さん、体調はいかがでしょうか？ 今もまだ新型コロナウイルスが収まらず、第三波の拡大が始まり、より深刻になっていますね。大変な状態であっても神の深い愛と憐みの中で LCJE ニュースレターが引き続き発行されていること 、神の栄光にハレルヤです！！！

現在、世界中で新型コロナウイルスに感染された人がますます増加しています。皆さんもニュースをご覧になったと思いますが「 新型コロナ ワクチンに十分な有効！?」「重い副作用のコロナワクチン」などの課題があります 。当然、私たちは肉体を持っている以上、健康管理として新型コロナウイルスから守る方法を考え、警戒しますね。このような私たち人間が持っている警戒心をもとに、よく聖書に書かれているキーワードの「目を覚ます 」の意味をもう一度認識してみましょう。

「どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい。」エペソ 6：18

皆さんが新型コロナウイルスを完全に予防できるワクチンが完成できることを望んでいるのはもちろんのことですが、神の教えによる 真のワクチン はそれではありません。つまり、肉体より最も重要である魂の救い”が有効になるワクチンがそれなのです。それは唯一の聖書限定であって“心のワクチンと言えるかもしれません。心のワクチンには 3 つの原料が求められます。**1 つ目はイェシュアによる贖い。2 つ目は揺るぎない神（イェシュア）への服従。3 つ目は知恵による信仰生活**であります。

「わたしの兄弟たち、いろいろな試練に出会うときは、この上にない喜びと思いなさい。信仰が試されることで忍耐が生じると、あなたがたは知っています。あくまでも忍耐しなさい。そうすれば、完全で申し分なく、何一つ欠けたところのない人になります。あなたがたの中で知恵の欠けている人がいれば、だれにでも惜しみなくとがめだてしないでお与えになる神に願いなさい。そうすれば、与えられます。いささかも疑わず、信仰を持って願いなさい。疑う者は、風に吹かれて揺れ動く海の波に似ています。そういう人は、主から何かいただけると思ってはなりません。心が定まらず、生き方全体に安定を欠く人です。」ヤコブ 2 :2 −8

✡ J ♡ ISL 部屋 ✡

私たちのグループ名「メシアの家」

※前回 10 月に発行された LCJE ニュースレター）のテーマ「イスラエル学こそメシアによる救いへの近道」の左部分に初めて記載した“ HOUSE OF MESSIAH” があります。これは私たちグループのロゴマークです。 LCJEJAPAN の HP にある【ヨム・キプール（大贖罪の日）】

図 1、図 2【ロシュ・ハシャナ（角笛を吹き鳴らす祭り）】
■イスラエル手話（※外国語手話使用）

JCJE 日本支部加盟団体のページにも記載日本支部加盟団体のページにも記載されておりされておりますますのので、どうぞよろしくお願いいたします。

ところで、神を称えるべき素晴らしい世界的なニュースがあります。

2019 年 7 月発行の LCJE ニュースレターに記載しました、アメリカの DOOR と DEAF MISSIONS（デフ・ミッションズ）がコラボレーションして聖書をイスラエル手話に翻訳するプロジェクトを発動させたニュースについて覚えていると思います。

実は、そのデフ・ミッションズが今年世界初、新旧全巻そろったアメリカ手話訳聖書を完成させました！！ アメリカでは、日本よりもおぞましいコロナ過がありましたが、最後まで信仰を持ち、継続的な神への大きな信頼があったことが分かりますね。これも聖書の「目を覚ます」原動力につながり、私を含め、世界中のろう者たちにとてつもない大きな影響力を与えてくださっています。これはまさに揺るぎない神の底力です。ハレルヤ！！！デフ・ミッションズは全巻のアメリカ手話訳が完成できるまでなんと 38 年間もかかっておりました。

めでたくアメリカ手話訳聖書が完成されましたが、日本の日常生活で使われる一般手話を基準とした翻訳スタイルの日本手話訳聖書はどうでしょう。非常に残念ながら今も存在しておりません。

皆さまもご存知の通り、やっと 2019 年にイスラエル手話を翻訳するプロジェクトをスタートできましたね。日本の今後の大きな課題の一つになります。神は回復の神です。神が、日常生活で使われる一般手話を方針とする私たちメシアの家を用いて日本手話訳聖書制作の新しい働きにに導かれるように祈り続けております。

8P へ続く▶

◀ 7P からの続き

なぜならば、マタイ 28：18 － 20 に書いてある通り、イェシュアは昇天する前に私たちを含め、弟子たちに大宣教命令を授けたので、第一にイスラエルを愛し、その上、母国である日本をも愛さなければなりません。それが神の御心です。どうか皆さま、私たちメシアの家の働きのためにお祈りとご支援をお願いいたします。

「いちじくの木から教えを学びなさい。枝が柔らかくなり、葉が伸びると、夏の近づいたことが分かる。それと同じように、あなたがたは、これらすべてのことを見たなら、人の子が戸口に近づいていると悟りなさい。はっきり言っておく。これらのことがみな起こるまでは、この時代は決して滅びない。天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。」
マタイ 24：32 － 35

【メシアの家】ゆうちょ銀行
記号
10080 番号 87052131 メシアノイエ
店名
〇〇八（ゼロゼロハチ）店番 008 普通貯金 8705213
（他銀行からのお振込）
Email:info@hom-japan.com
（お振込みいただいた後、ぜひ Email にてお知らせ下さい）

LCJE日本支部事務局レター

LCJE

LCJE は、ユダヤ人伝道団体の情報交換ネットワークです。加盟しているユダヤ人伝道団体それぞれの立場・活動を尊重して、機関紙などに情報を掲載しています。しかし特定の立場・教理などを、LCJE として支持するものではありません。読者におかれましては、個々の見識によって提供される情報を判断してくださいますよう、お願いいたします。

2021年度祈祷会予定

場　所	1月	2月	3月	会　場
大阪（6:30より）	14日	11日	11日	北浜スクエア（VIP関西センター8F）
東京（1:30より）	9日	13日	13日	御茶ノ水クリスチャンセンター 8F 811号室

【大阪祈り会にご参加される方へ】第二木曜日午後 6 時半開始です。
【東京祈り会にご参加される方へ】ご注意ください▶通常祈り会の会場は、811号室ですが、変更される場合があります。
階下の掲示板をご覧になってご参加ください。

LCJE日本支部 2020年11月度会計

収入・献金		支出・現金	
科　目	金　額	科　目	金　額
献　金	53,400	事務費	2,000
大阪祈り会席上献金	5,000	NEWSレター製作費	0
		郵送費	0
		郵便振替手数料	2,200
		通信費	2,800
		賃借・管理費	22,000
		高熱費・共益費	13,030
		交通旅費	7,000
		祈り会経費	3,000
合　計	58,400	合　計	52,030
		差引残高	6,370
前月よりの繰越	84,573	次月繰越金	95,073

事務局よりのお知らせ

LCJE 日本支部では、皆様からの御投稿をお待ちしています。
インターネットでの御投稿、原稿用紙での御投稿いずれも大歓迎いたします。文字数は 2000 文字前後でお願いいたします。投稿記事は、封書で送っていただくか、
LCJEJAPAN@HOTMAIL.COM
又は **FAX 072-867-6721** まで。宜しくお願い致します。

編集後記

コ・ワーカーの皆様、継続的なお祈り、そして尊い献金を心より感謝します。この度、ニュースレターをお手元へお届けできる幸いを主に感謝します。今月号も興味深い記事内容に仕上がっています。編集作業・事務所運営の事も覚えてお祈りください。一日も早いコロナウイルスの終息を主にあって願います。今月も多くのユダヤ人が主とお出会いし救い主を受け入れる事、そしてイスラエルの平和を執り成しお祈りいたしましょう。主の祝福がありますように。
シャローム　　LCJE日本支部事務局長　高瀬真理

LCJE日本支部は、皆様の尊い献金で支えられています。感謝